ティーチング・ステートメント

薬学部　薬学科
齋藤　佳敬
2024/3/12

【責任】

薬学部薬学科において、医療薬学に関する教育に取り組んでいる。主な教育活動として「薬と疾病（悪性腫瘍）」等の講義や「臨床薬学実習」等の臨床実習、卒業研究指導等薬学生を対象としたものに加え、ライセンスを取得後の薬剤師に対する卒後生涯学習教育講座や研究・業務指導がある。加えて、がん専門薬剤師として北海道大学病院での薬物治療管理業務にも従事し「活きた」臨床を学生に教示できるよう研鑽を継続している。

【理念】

私の教育理念は「患者ファーストの医療の実施を心掛け、向上心を持ち日々努力できるような意識付けをする」ことである。薬剤師の臨床業務として臨床・研究・教育が挙げられるが、全ては「患者のため」である。そのためには、「何が患者のためになるのか」を相手の立場になって考えるだけではなく「患者のために自分がどう動くべきか」を能動的に考えることができなければならない。

また、調剤行為が拡大解釈されて以来、薬剤師に求められているのは対患者業務であり、そのなかで取り扱うのは医薬品のデータである。しかしながら、そのデータは患者が得たものを客観的に入手することがほとんどである。そのためには患者を「先生」と考え、多くのことを学び、感謝し、その知識を経験として他の患者に伝えていく立場であるということを認識し行動する必要がある。この考えはライセンス取得後の薬剤師が必ずしも認識しているとも限らなく、上記の気づきがあるかないかでその後の薬剤師人生が変わるといっても過言ではない。

上記から、がん専門薬剤師として臨床業務を継続している臨床系教員として学生に薬剤師に求められていること、薬剤師が為すべきことを自身の経験を基に伝えていきたい。

【方針・方法】

上記の理念を実現するためには「知識の習得および定着化」、「コミュニケーション能力の養成」、「臨床的問題・疑問の解決能力の向上」および「様々な疑問を呈する必要性への気づき」が重要であり、さらにはそれを支える「意識」が必要である。以下に、具体的な手法を示す。

「知識の習得および定着化」
・知識の優先順位をつけた資料作成および講義
・毎回の講義終了後の確認テストの実施

・講義の中での自身のがん専門薬剤師としての経験を付加した情報提供
・「建前」だけではなく「本音」も語る
・実際の臨床業務で用いられる手技の教示（特に新人薬剤師が苦手とする部分）

「コミュニケーション能力の養成」
・個別面談の際に自身が患者に対応するように学生に対応し、実際の手法を体験させる
・相手の立場で考える重要性を実例を用いて伝える
・実際に自身が患者の立場となった場合の思考を考えさせる

「臨床的問題・疑問の解決能力の向上」
・問題の優先順位や重要度を区分けできるような講義を組み立てる
・問題が生じた際にどのように解決するかのプロセスを考える講義の実践
・論文やガイドラインの探索および読解
・研究・臨床業務能力の向上のための「考える力」を養うディスカッション

「様々な疑問を呈する必要性への気づき」
・相手の立場で考える重要性を実例を用いて伝える
・実際に自身が患者の立場となった場合の思考を考えさせる
・「建前」だけではなく「本音」も語る
・実際に経験した事例を提供する

【成果・評価】
・試験の合格率が上昇した。
・授業アンケートによると講義内容の明瞭さに加え、自身の経験談や医療者としての心構えに関する内容に関する高評価があった。
・講義以外でも自身の身の回りの方の抗がん薬治療に関する質問があり、「がん治療に関する勉強に意欲がわいた」との意見があった。
・毎回の講義後の確認テストの配布が好評であった。
・研究指導をした薬剤師による論文発表
・業務指導をした薬剤師の認定取得

【目標】
<u>短期</u>
・授業アンケートを参考に講義内容を見直し毎年アップデートすることで、可能な限り実臨床に即した講義を実施する（毎年）。

・薬剤師として業務を行う際に「大学で学んでおいてよかった」と思える講義や研究テーマを考案する（毎年）。
・薬剤師が現時点で問題視している課題の解決プロセスを見出し、解決に導く（進行形）。
<u>長期</u>
・患者ファーストで考え・行動できる薬剤師の養成
・がん領域に限らず、ジェネラリストの上に立つスペシャリストの養成
・臨床薬剤師の視点で実施する研究の醸成